



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年2月12日

上場会社名 SDエンターテイメント株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4650 URL <http://www.sugai-dinos.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 正
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉住 実 TEL 011-241-3951
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 有

百万円未満切捨て

1. 平成27年3月期第3四半期の業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	5,426	△11.7	140	3.8	30	24.7	102	—
26年3月期第3四半期	6,142	△0.1	134	124.1	24	—	△349	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	24.15	24.04
26年3月期第3四半期	△82.41	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	9,592	2,004	20.9	469.13
26年3月期	9,930	1,891	19.0	444.51

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 2,002百万円 26年3月期 1,886百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	11.60	11.60

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

27年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当5円80銭 記念配当5円80銭

3. 平成27年3月期の業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,700	△6.6	400	48.8	200	71.5	250	—	58.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

27年3月期3Q	4,303,500株	26年3月期	4,303,500株
27年3月期3Q	34,694株	26年3月期	59,494株
27年3月期3Q	4,257,306株	26年3月期3Q	4,246,258株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策効果を背景に一部の企業で収益の改善や積極的な設備投資により、景気の緩やかな回復傾向がみられるものの、消費税率引上げや物価の上昇による消費マインドの低下、また海外景気の下振れリスク等により、不安定な要素を抱えつつ推移しました。

このような状況のなか、平成26年5月23日、当社の強みや健康グループとのシナジーを最大化し、企業価値・株主価値向上へ向けての方針を発表した「健康コーポレーションとの戦略的事業資本提携」にもとづき、「健康グループ」の経営理念であり、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう (KENKOU) 』をつくり、『えがお (EGAO) 』と『かがやき (KAGAYAKI) 』と『ありがとう (ARIGATOU) 』を創造し続け、世界中に広めます。」の経営理念のもと、一層の経営の効率化を図り、収益力の強化に取り組んでまいりました。

平成26年7月1日に社名を「株式会社ゲオディノス」から「SDエンターテイメント株式会社」に変更し、ブランド名「スガイディノス」を復活させたのを機に、アルバイト従業員まで含めた店舗毎のインセンティブ制の導入などの営業活性化策をはじめ、不採算施設の改革に着手しました。また、一方では、休止固定資産関連費用の出血を全て止めたことをはじめ、様々な分野における固定費の圧縮にも取り組み、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパーク事業を前グループ会社に資産譲渡したこと（以下、「LP資産譲渡」という。）や不採算店舗の撤退等に伴う売上減を補うべく、事業部制の筋肉質な組織に体質改善いたしました。さらには、「冬も遊ぼう!! GOGOスガイディノス」など設立60周年の各種イベントを実施しました。

その結果、当第3四半期累計期間売上高は54億26百万円（前年同四半期比11.7%減）、営業利益は1億40百万円（同3.8%増）となり、経常利益は30百万円（同24.7%増）、四半期純利益は「LP資産譲渡」に伴う固定資産売却益1億45百万円を特別利益に計上したことにより、1億2百万円（前年同四半期は減損損失3億52百万円の計上により純損失3億49百万円）となりました。

第3四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	前年同四半期比 (%)
GAME事業部 (千円)	1,829,654	△22.9
フィットネス事業部 (千円)	1,714,258	△4.3
ボウリング事業部 (千円)	775,174	△10.5
施設管理事業部 (千円)	786,429	8.0
（シネマ） (千円)	(604,078)	(7.5)
（その他） (千円)	(182,350)	(9.6)
その他 (千円)	320,988	△16.4
合計 (千円)	5,426,505	△11.7

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

- 平成26年3月1日の組織変更に伴い、「GAME運営部」、「フィットネス運営部」及び「ボウリング運営部」をそれぞれ、「GAME事業部」、「フィットネス事業部」及び「ボウリング事業部」に名称変更し、「ディノス施設運営部」を「施設管理事業部」に名称変更しております。また、「カフェ運営部」につきましては、前事業年度中に閉店した店舗があったことにより、その売上金額の重要性が減少しましたので、「その他」に変更しております。前年同四半期比については、当該変更を反映した前期の数値を用いております。
- 施設管理事業部の（その他）は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。
- 施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

(GAME事業部)

GAME事業部につきましては、業界全体に活況を与える程の大ヒットタイトルはなかったものの、当社ではUFOキャッチャーに代表されるクレーンゲーム機に「妖怪ウォッチ」や「アナと雪の女王」等の人気のアイテムを積極的に導入したことや10円キャッチャー等店舗別の特長を活かした施策で効果を上げるなど、既存店は比較的堅調に推移しました。一方で、「LP資産譲渡」したこと、消費税増税分を料金転嫁していないこと、不採算店舗を閉店（「ディノスパーク鉤路町店」（平成26年6月）、「ディノスパーク旭川買物公園店」（平成26年11月））したこと等、計画に織り込み済みの減収要因により、売上高は18億29百万円（前年同四半期比22.9%減）となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、当社オリジナルのプロテインを新たに開発し12月に販売を開始しました。また10月1日からの「ゲオフィットネス」から「SDフィットネス」への店名変更を機に全店一斉にスタートした入会キャンペーンが成功し、会員数は急速に回復し、12月は前年同月比を上回りましたが、4-9月の新規会員の獲得率低下等の要因により、売上高は17億14百万円(同4.3%減)となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、「健康ボウリング」を掲げて、積極的なシニア層取り込みを進めたこと、新規施策の一環として、投げ放題パック等の導入により、平均単価が上昇しました。一部の店舗ではD Jで場内を盛り上げ、アルコール販売強化を目的とした、イベントガールの投入を試みました。しかしながら、ボウリング業界の全国的な来場者数鈍化や競合店との競争激化の影響等による利用者の分散等により計画を下回り、期初計画に織り込み済みのビリヤード店1店舗閉店(平成26年2月)等の影響も加わり、売上高は7億75百万円(同10.5%減)となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」において、3月に公開した「アナと雪の女王」や12月に公開した「映画 妖怪ウォッチ 誕生の秘密だニャン!」が大ヒットしたことにより計画を上回り、売上高は6億4百万円(同7.5%増)となりました。また、映画館の多目的活用の一環として、謎解きをしながら館からの脱出をはかるというアトラクション「脱出ゲーム」を試験的に実施しました。「その他」においては、札幌市内のビリヤード店だったスペースをグループ会社が運営しているパーソナルトレーニングジム「RIZAP(ライザップ)」に賃貸(平成26年4月)し、不動産賃貸収入が増加したことにより、売上高は1億82百万円(同9.6%増)となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、店舗名を「ゲオカフェ」から「ディノスカフェ」に変更し、冬に向けて温かい飲食メニューの強化で単価が上昇したことや各種企画の開催等で、集客、客単価ともに既存店は堅調に推移しました。しかしながら、不採算店舗であった「ゲオカフェ秋田東通店」(平成25年11月)及び「ゲオカフェ宮音羽店」(平成25年12月)を閉店したこと等、期初計画に織り込み済みの減収要因により、売上高は3億20百万円(同16.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は95億92百万円となり、前事業年度末に比べ3億38百万円減少しました。これは主に、建物等有形固定資産の減少(前期末比3億7百万円減)があったことによるものであります。

負債については、75億87百万円となり、前事業年度末に比べ4億51百万円減少しました。これは主に、社債等固定負債の増加(同3億47百万円増)がありましたが、1年内返済予定の長期未払金等流動負債の減少(同7億98百万円減)があったことによるものであります。

純資産については、20億4百万円となり、前事業年度末に比べ1億13百万円増加しました。これは主に、株主資本の増加(同1億17百万円増)があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間は、コスト削減等を中心とする施策を実行し、第3四半期以降は売上拡大・成長を主眼とすることを進め、集客拡大及び売上高増加の具体的施策として、ボウリングでは「パーティボウリング」の推進、ゲームでは「タイムアミューズメント(時間消費型レジャー)」モデルの徹底、フィットネスでは店舗ブランド変更に伴う入会キャンペーンの実施など、積み重ねによる施策を実行中であります。その結果、今第3四半期累計期間は、売上高で前年同四半期を割り込んだものの、利益面では前年同四半期を上回りました。

第4四半期におきましては、「SDフィットネス中期ビジョン~健康コーポレーショングループとのシナジー強化~」(平成27年2月12日公表)を策定し、親会社健康コーポレーショングループと連携したSDフィットネス事業の収益の拡大施策を実行していく方針であります。具体的には、健康コーポレーションの持つマーケティングノウハウを最大限に活用し集客力を抜本的に強化するとともに、RIZAP事業との連携による新プログラムの開発、オリジナル物販商品ラインナップの拡大、サービスレベルの進化により利益率の向上を図っていく計画としております。

当社のもうひとつの主力事業であるゲーム事業においては、イベント企画等でマシンに頼らない運営の取組みにより、店舗オペレーション力がつき収益改善の効果が表れてきた店舗を中心に、3月からは新機種を購入設置を増やしていく方針であります。また、引き続き好条件のゲーム場中古物件の営業を引き継ぎ、確立したオペレーションを導入することで高収益化する形での出店も検討しております。

さらには、セグメント横断的な施策としては、再来場促進を狙いとしたスマホ用「ディノスアプリ」を1月に運用開始するなど、顧客基盤強化施策を実施するほか、年々拡大するアジアを中心とする外国人観光客の当社施設への呼び込むため、外国人向けのWEB集客施策、外国人でも遊びやすい施設整備などに取り組む施策を実施しはじめております。

また、電力料金負担増を抑えるための施策として、従来より北海道内の自社ビルである大型複合アミューズメント施設を中心に、インバーター制御盤の交換や電球のLED化を進めてまいりましたが、省エネのための設備投資を実施していない店舗が、北海道外フィットネス店舗を中心に全国15店舗あり、それら未実施店舗の省エネのための設備投資を順次実施していき、コスト削減に努める計画であります。

以上の計画等の実行やそれら施策等の効果につきましては、効果の出始める時期等不確定な要素が少なくなく、今後の業界景況や、消費動向を慎重に見極める必要があることなどから、平成26年5月23日付「平成27年3月期業績予想に関するお知らせ」にて発表した通期の業績予想は据え置くものいたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	840,379	911,774
売掛金	130,573	107,656
商品及び製品	34,372	37,069
原材料及び貯蔵品	76,787	92,309
その他	198,967	132,163
貸倒引当金	△1,010	△90
流動資産合計	1,280,071	1,280,883
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,291,597	3,151,956
アミューズメント機器(純額)	352,201	290,351
土地	2,680,490	2,680,490
リース資産(純額)	621,086	522,767
その他(純額)	154,087	146,110
有形固定資産合計	7,099,464	6,791,677
無形固定資産	45,912	42,853
投資その他の資産		
差入保証金	1,197,061	1,154,066
その他	251,318	248,631
貸倒引当金	△2,850	△6,546
投資その他の資産合計	1,445,530	1,396,152
固定資産合計	8,590,906	8,230,683
繰延資産	59,913	81,073
資産合計	9,930,891	9,592,640
負債の部		
流動負債		
買掛金	166,597	185,445
短期借入金	420,000	-
1年内償還予定の社債	622,800	894,800
1年内返済予定の長期借入金	935,850	784,910
1年内返済予定の長期未払金	454,799	141,907
未払法人税等	30,305	19,758
賞与引当金	29,508	6,784
ポイント引当金	7,900	8,100
事業構造改善引当金	137,889	18,949
その他	838,939	785,196
流動負債合計	3,644,591	2,845,851
固定負債		
社債	2,012,800	2,809,000
長期借入金	1,488,885	1,160,387
長期未払金	253,009	187,430
資産除去債務	137,346	136,547
その他	502,490	448,578
固定負債合計	4,394,530	4,741,943
負債合計	8,039,122	7,587,795

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,977,770	1,806,154
利益剰余金	△175,446	102,798
自己株式	△26,805	△15,631
株主資本合計	1,875,519	1,993,321
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,003	9,302
評価・換算差額等合計	11,003	9,302
新株予約権	5,246	2,220
純資産合計	1,891,769	2,004,845
負債純資産合計	9,930,891	9,592,640

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	6,142,781	5,426,505
売上原価	1,353,950	1,000,028
売上総利益	4,788,830	4,426,477
販売費及び一般管理費		
給料	1,162,737	1,105,010
賞与引当金繰入額	15,270	6,784
退職給付費用	16,101	14,165
水道光熱費	503,829	521,678
租税公課	57,948	51,977
地代家賃	898,462	857,093
減価償却費	570,199	497,002
修繕維持費	312,669	284,987
その他	1,116,701	947,769
販売費及び一般管理費合計	4,653,922	4,286,468
営業利益	134,908	140,008
営業外収益		
受取利息	2,300	2,027
受取配当金	969	579
アミューズメント機器売却益	4,369	604
受取保険金	7,223	3,714
その他	4,716	4,435
営業外収益合計	19,578	11,363
営業外費用		
支払利息	78,164	66,634
アミューズメント機器処分損	13,864	13,932
その他	38,117	40,456
営業外費用合計	130,145	121,022
経常利益	24,341	30,348
特別利益		
固定資産売却益	973	145,996
投資有価証券売却益	1,229	-
違約金収入	4,340	-
移転補償金	1,597	-
資産除去債務戻入益	-	2,011
特別利益合計	8,140	148,008
特別損失		
固定資産売却損	134	219
固定資産除却損	6,732	9,950
減損損失	352,154	14,194
アドバイザー関連費用	16,552	-
リース解約損	-	792
保険解約損	-	1,202
ゴルフ会員権売却損	-	500
子会社株式売却損	-	2,999
店舗閉鎖損失	-	8,782
貸倒引当金繰入額	-	6,546
特別損失合計	375,574	45,188
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△343,092	133,168
法人税、住民税及び事業税	22,890	19,770
法人税等調整額	△16,049	10,599
法人税等合計	6,840	30,370
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△349,933	102,798

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。